

令和3年度 野々市市創生総合戦略推進会議 会議要旨

日 時 令和4年2月10日（木） 午前10時00分から午前11時00分

場 所 野々市市情報交流館カメラア2階 ホール椿

次 第 1 開会

2 報告

(1) 第2期ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について

3 議事

(1) 地方創生関連交付金等（令和2年度）の効果検証について

4 委員からのご意見等

5 閉会

出席委員	飯田 克志委員	石川 憲一会長	榎本 俊樹副会長	北村 恒委員
(50音順)	澤村 昭子委員	徳田 敦委員	徳野 三知應委員	中野 尚吾委員
	初野 健二委員	藤田 雅顯委員	松田 淳太郎委員	山口 誠委員
事務局	山口副市長	中田総務部長	浅野企画振興部長	堤健康福祉部長
	中藪土木部長	山下教育文化部長		
	木戸口企画課長	企画課職員（窪課長補佐、岩崎主事）		

会議内容

1 開会

委員 12 名のうち、全員が出席
事務局より資料確認と新任の委員紹介
山口副市長より開会の挨拶
石川会長へ議事進行を依頼
石川会長より挨拶

2 報告（1）第2期ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について

事務局より資料1、資料2に基づき説明

澤村委員：

女性の就業率と高齢者の就業率について、国勢調査の結果はいつ頃公表されるのか。

事務局：

令和2年の国勢調査の結果については、昨年11月に人口と世帯の確定値が公表されている。女性の就業率については、今年の5月か6月頃に公表される見込みとなっているため、来年度の会議でお示しする予定である。

徳田委員：

創業支援や起業支援の様々な取組をされており、その効果が見えてきていると思う。

弊社では伴走型での創業支援に取り組んでおり、他の金融機関についてもそれぞれの取り組みを行っていると思われる。創業した後が非常に大切であり、今後、今まで以上に金融機関と連携していくことができれば、創業からの自立、野々市市に根づいた企業、というかたちで企業の成長が促されていくと思っているため、ぜひ協力をさせていただきたい。

事務局：

金融機関及び商工会の方々には日頃から多大なご支援をいただいております、大変ありがたく思っている。今後ともご協力のもと、しっかりと進めて参りたい。

3 議事（1）地方創生関連交付金等（令和2年度）の効果検証について

事務局より資料3に基づき説明

会長：

コロナ禍という難しい環境ではあったが、努力いただいたのではないかと思います。創生総合戦略のKPI達成に有効であったと判定してよろしいか。

委員：異議なし

会長：

異議なしのため、3つの事業全て有効であったと承認する。

4 委員からのご意見等

山口委員：

資料2の施策1-1に令和2年度の「起業創業相談件数累計」が79件とあるが、基本戦略1では「市の創業に基づく企業者数」が31名とあり、40名以上の方が起業を検討・計画している状況である。

白山信用金庫では、野々市市商工会さんの協力もいただきながら、「女性のための起業スタートセミナー」を開催した。「女性の夢がこの街を元気づける」というサブタイトルを掲げ、実際に起業した方の話を聞くという内容で、野々市市から白山市、美川、小松、能美、鶴来、川北の商工会や商工会議所にて全8回開催したもので、横の繋がりを持つといった意味では非常に効果的であったと思う。今後もぜひ活用いただきたい。

我々も地域の信用金庫として、起業家だけでなく、すでに商売をしている方についても、コロナウイルス関係での資金繰り等、しっかり目線を合わせて向き合っていきたいと考えている。

事務局：

金融機関や商工会を含めた金融支援ネットワークを有効利用し、今後もしっかりと支援を行って参りたい。

藤田委員：

基本戦略3-1に「住民主体の憩いの場の活動支援数」について、各町内会が今保有している集会所が約40箇所あり、令和6年までの間に46箇所まで増加させるとあるが、新たに集会所ができる、補助をするという前提なのか。もしくは、既存のどこかの場所を数えて46箇所とすると考えているのか。

また、3-2の「避難行動要支援者及び避難行動実施町内会」について、平成30年に2町会であるが、防災訓練では各町内会で避難行動要支援者のチェックを行っている。値の数字もしくは設定要件が若干違うのではないか。

事務局：

「住民主体の憩いの場の活動支援数」については、市内3箇所の地域包括支援センターが行っている支援の数を計上している。各地域包括支援センターが年に1回ずつ支援の回数を増やすことで、5年後には年間の支援回数が15回増加していることを見込み、目標値を設定した。増加を見込んでいる場所の詳細については内部で改めて確認する。

「避難行動要支援者避難訓練実施町内会数」については、5年間で新たに10町内会が訓練を実施することを見込み、拠点避難所ごとに少なくとも1町内会が訓練に取り組むことを目指している。ご指摘の点について、改めて担当課と協議させていただきたい。

藤田委員：

令和2年度の主な取り組みの「地域力強化推進事業」について、1回開催された程度で強化と言うことができるのか。

事務局：

コロナ禍で判断しづらい点もある。今後はアフターコロナを見据え、随時開催について検討していきたい。

徳野委員：

資料2に「コミュニティバス利用者数」とあるが、平成30年には約214,000人いた利用が令和2年には約126,000人となっている。「やや遅れている」という評価であり、自分がバスを利用する際にも乗客は減少しているように感じる。目標値の230,000人を達成することはできるのか。

事務局：

感染症拡大の影響を非常に大きく受けており、昨年度はコロナ禍による減便等があった。目標値は感染症流行前に設定しているため、数値の減少についてはご理解いただきたい。

榎本副会長：

KPIの達成状況を踏まえて、その後PDCAをどう回していくかということに関しても、市民に発信してはどうか。結果だけホームページに載せて終わりというのは、市民の方にとっては少し物足りないのではないか。

金沢工業大学が野々市市の中にあることを生かし、デジタル化やIT化を促進させ、町内会の皆さんと連携しながら、コロナ禍でもある程度の目標を達成できるようなシステムの構築を進めていくことが大事になってくるのではないかと思う。

コロナ禍において、インターネット経由でほとんど全てのことができるということが初めてわかった。野々市市には若い人も多いため、若い人が年配の人に教えるということもできる。そういった取組をしながら、目標を達成していけばよいのではないか。

5 閉会